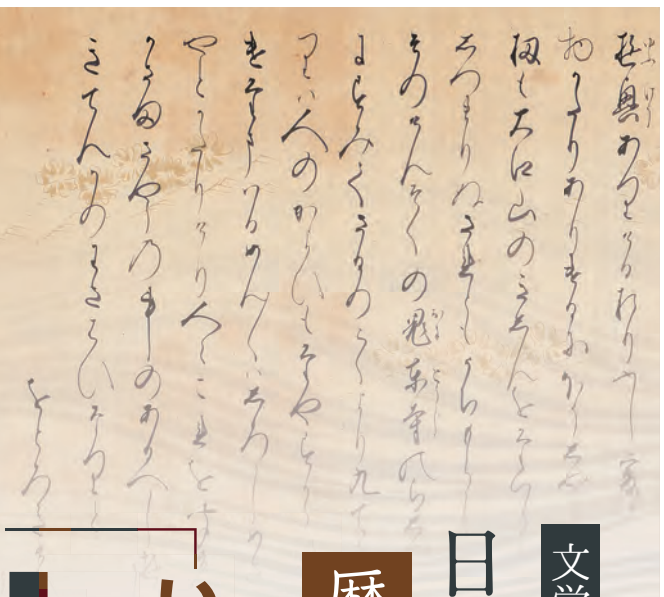
2021
12
No. 707

國學院大學學報

国学院大学
令和３年12月20日㈪　定期号（毎月20日発行）１部20円
［発行］国学院大学　［編集］総合企画部広報課　〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目　［電話］03（5466）0130　［FAX］03（5466）0528

「出勤前」
白飯（シライヒ）の湯氣立つ　朝の暗けくに、
箸をとりつ、
あはれ　と　言ふも
（「春のことぶれ」）
釈　迢空

祭　儀　■ **大祓**　12月24日（金）　午後４時　神殿前庭　■ **歳旦祭**　１月１日（土・祝）　午前11時　神殿



文学部・小川直之教授に聞く

日本の成年の歴史をひもとく
「いくつもの大人」像

成年の定義が令和４年４月１日から大きく変わる。民法改正により、成年年齢が現行の20歳から18歳に引き下げられる。成年の定義が見直されるのは約１５０年ぶりのことだ。

民法が定める成年年齢は「一人で有効な契約をすることができる年齢」という意味と、「父母の親権に服さなくなる年齢」という意味がある。親の同意を得なくても、自分の意思でさまざまな契約ができるようになるほか、住む場所や進学、就職なども自らの意思で決めることができる。

日本で「成年」や「成人」という記述が初めて登場したのは平安時代に遡（さかのぼ）る。平安時代末期の国語辞典『色葉字類抄（いろはじるいしょう）』には、「成人」という言葉が「成長する」という意味で使われている。

なぜ「成年」という考え方があるのだろうか。民俗学を専門にする文学部の小川直之教授は「国家制度として義務と権利を考えた場合、一定のところで線を引かねばならない。男女、年齢を基にした線引きが必要で、これが法令としての『成年』だった」と説明する。一方、法令ではなく、庶民生活の視点から考えると、「成年」には３つの基準があった。６・７面では、３つの基準ができた時代背景や、日本で「成年」や「大人」がどのように捉えられてきたかを解説する。

６・７面に関連記事

文化勲章受章　岡野名誉教授

「思いがけない栄誉と深い学問の道たどった」

11月に国学院大学の卒業生で初めて文化勲章を受章した岡野弘彦名誉教授＝**写真**＝のお祝いの会が12月９日、明治記念館（東京都港区）で開かれた。お祝いの会には、岡野名誉教授をはじめ親族、佐柳正三理事長、針本正行学長らが出席した。

佐柳理事長は、「院友で初めてとなる文化勲章の受章は、本学にとっても最高の栄誉。岡野先生の短歌は日本の古典の伝統を踏まえられ、古典和歌の継承者といえる。一方で短歌に盛り込まれた感情は、戦後を生きた日本人の感情そのもの。古典和歌と現代人の生活・感情を高い次元で融和させた歌は国民の財産となった」と主催者を代表して挨拶した。

岡野名誉教授は「学生のころから老いの齢（よわい）に至るまで、国学院大学ではいろんな教えと導きと楽しい時をいただいた。97歳になって体も衰えたが、歌を作ることだけは心の底から湧いてくる感じがして細々と作り続けている。神主の家に生まれて、思いがけない栄誉と深い学問の道をたどらせていただいた」と静かにこれまでを振り返った。

岡野名誉教授は、大正13（１９２４）年生まれ。本学在学中に折口信夫元教授が指導する短歌結社に加わり、創作を始めた。本学教員として教壇に立つ傍ら、歌作に励み、昭和48年に歌集『滄浪歌』で迢空賞。54年から宮中歌会始の選者となり、58年からは宮内庁御用掛（御歌）として、昭和天皇をはじめ皇族方の和歌指導を務めた。63年に紫綬褒章、平成25年に文化功労者。

みはるかすもの

師走の風物詩を問われて、「忠臣蔵」を思い起こす人は少なくなっているようだ。元禄15年12月14日、赤穂浪士47人が江戸・本所の吉良邸に討ち入り、主君の赤穂藩主・浅野内匠頭長矩の仇討ちを遂げた赤穂事件。史実を主題にした忠臣蔵は、赤穂藩があった兵庫県赤穂市はもとより、四十七士が眠る高輪・泉岳寺や両国の吉良邸跡などゆかりの地があり、逸話を今に伝える▼本学学生と外国人留学生の交流会を取材した際に、10代、20代の若者たちが忠臣蔵を知らないことに驚いた経験がある。ハリウッドでは近年、忠臣蔵を題材にした作品が発表され、留学生の何人かは知っていたようだが、日本人学生の反応は薄い▼思い返せばＮＨＫの大河ドラマで題材になってから20年以上が経つ。若者たちになじみがないのも納得がいく▼「仮名手本忠臣蔵」などが繰り返し上演される文楽や歌舞伎だけでなく、映画、落語、講談、浪曲など四十七士の物語を題材にする芸能は多い▼誰もが知っていたはずの物語はいつから置き去りになっているのだろう。勧善懲悪や主君への忠義は今の価値観に合わないという人もいる。しかし史実の大石内蔵助こと大星由良助は「仮名手本忠臣蔵」で、「親に別れ子に離れ…」と義を貫くなかで犠牲となる家族への思いを吐露する。親子の情や不条理を正す心は普遍ではないか▼流行の海外ドラマやアニメもよいが、「国学」を冠する学舎に身を置く読者諸氏なら一度、日本人が語り継ぐ物語に目を向けてみては。

主な内容　**2面**／大学院開設70周年 佐藤大学院委員長に聞く　**3面**／令和４年度 学年暦が決定　**4面**／渋沢栄一の理念と国学院との関係に迫る
5面／アスリートの「第二の人生」考える　**6・7面**／日本の成年の歴史をひもとく いくつもの「大人」像
8・9面／高校生向けコンテスト入賞作決定　**10面**／インフォダイジェスト
最終面から　K:DNA　**Ⅰ面**／全日本学生柔道体重別 初の２階級制覇　**Ⅱ面**／「日本一は後輩に」明治神宮大会ベスト４、箱根駅伝

KOKUGAKUIN UNIVERSITY 140th 1882–2022

大学院開設70周年 佐藤大学院委員長に聞く

「国学研究の学統 改革も怠らず」

国学院大学大学院は、昭和26（1951）年の文学研究科修士課程開設から70年の節目を迎えた。以来、同研究科に博士課程、さらには法学研究科、経済学研究科と順次、拡充を図り、優れた研究者をはじめ教員、学芸員など高度な職業人を輩出してきた。世界的な競争が激化し、グローバルに活躍できる高度な専門人材の育成が強く求められるなか、歴史ある大学院の一つとして、その役割をどう果たしていくのか、佐藤長門大学院委員長（文学部教授）に聞いた。

――大学院を開設して70年になる。これまでの歩みをどのように捉えているか。

本学は皇典講究所を母体に国史や国文、国法などを研究する教育機関として発足し、大正9年に大学令により、早稲田、慶応義塾、同志社などとともに大学に昇格した私立8大学の一つでもある。今も文学部や神道文化学部では教員の5～7割が卒業生という、国学研究の学統を築き上げ、脈々と守っていることが特徴の一つにあげられる。大学院もこの強みといえる伝統を継承してきた一方で、時代の変化に合わせた改革への取り組みも怠らず、この70年の間に着実な発展を遂げることができたと受け止めている。実際、学位授与数をみると、今年3月現在で博士号の授与が大正12年の三矢重松博士以来700件と人文科学系大学院では国内屈指の実績を誇る。

――日本では大学院修了後の就職難など解決すべきいくつかの課題が指摘されている。

本学でも大学院修了後のキャリア形成を確実なものにしようと、いわゆる出口戦略への取り組みも本格化させている。その一つとして法学研究科に公務員養成コースを設けたほか、経済学研究科には税理士資格の取得を目指すカリキュラムを用意するなどの実効性のある施策を講じ、成果を挙げている。

若木タワー5階に掲げられた大学院の銘板。渋谷キャンパス再開発前の旧校舎でも大学院生たちを見守った

――大学院での学びの機会を広める取り組みは。

社会人を含め、できるだけ多くの学部卒業生に大学院で学び、専門的知識を深めることに挑んでもらいたい。このため令和2年度からは複数の教員から論文の指導が受けられるコースワーク制を導入した。国際交流にも力を入れ、協定を結ぶ中国・南開大学との学術シンポジウムをオンラインで2年ぶりに再開し、論文集の作成を進めている＝**下段に関連記事**。こうした大学院の中身をよく知ってもらおうと、全学年の学部生を対象にした大学院の体験授業も、今年度から文学研究科で始めた＝**同**。これらに加え院生対象の奨学金制度も経済支援型と学業奨励型の二本立てにし、手厚い支援が受けられるように見直している。

――これからの大学院はどうあるべきか。

文学にしても哲学にしても、学問は古代から人間とは何かを解き明かすところからはじまっている。その重要性は何ら変わっておらず、学問を軽視すると国の足元が揺らぎかねない。したがって学術研究と教育の場としての役割を担う大学院は、いっそうの充実が図られるべきだろう。その一環として、社会の変化に合わせ多様化する学びの要求に柔軟かつ的確に対応できるようにしていく必要性もあると考える。

進学後の姿 イメージ湧いた
学部生向けに体験授業

大学院文学研究科は、大学院進学に関心がある本学学部生を対象に、体験授業を11月8日から12月18日まで行った。この企画は、今年度新しい試みとして実施され、学部生は受講を希望する科目に最大6回まで参加することができる。

体験授業の対象科目は文学研究科の各専攻・コースで19コマが設定され53人が参加した。井上明芳文学部教授が担当し、白樺派文学に関する発表やディスカッションを行っている「日本近現代文学研究BⅡ（演習）」には、井上教授が担当する学部の演習を受講中という日本文学科3年生3人が参加。大学院生たちの発表や議論に耳を傾け、熱心にメモを取った。

大学院進学を考えていて体験授業に参加したという3人は、「学部の授業とは全然違う。難しいけど楽しい」「知識量の違いを感じる」「想像よりもレベルが高かったが、現実を知れたことは大きい」とそれぞれに語った。

オンラインで南開大学院生と研究フォーラム

国学院大学大学院文学研究科では中国・天津市の南開大学外国語学院と平成27年に学術協定を締結し、学術交流を深めている。11月20日、21日には「第7回国学院大学・南開大学院生フォーラム　東アジア文化研究国際シンポジウム」がビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を用いたオンラインで開催された。このフォーラムは、協定締結前の26年から開催。昨年は新型コロナウイルスの感染拡大で中止となり、2年ぶりの開催となった。

開会にあたり小川直之文学部教授は「大学間の国際交流の実質化は簡単なことではないが、多くの方の協力で両大学間の学術交流は充実したものになっている」と挨拶。基調講演では、大石泰夫文学部教授が「獅子舞と虎舞―東アジアの民俗芸能論序説―」、王凱・南開大学外国語学院副教授が「王位継承としての白村江の戦い」と題してそれぞれ講演を行った。

2日間にわたる同フォーラムでは、両大学の若手研究者や大学院生ら22人が、日中の文学や民俗学、言語学などについて研究発表を行い、質疑応答が行われるなど活況を呈した。

令和4年度 学年暦が決定

令和4年度の学部・大学院の学年暦が決定した。詳細は下表のとおり（ただし入試関連行事を除く）。

学部学年暦	
4月 1日(金) ～ 9日(土)	オリエンテーション、履修ガイダンス等
4月 2日(土)	入学式
4月11日(月)	前期授業開始
5月 1日(日)	神殿鎮座記念祭
7月23日(土)	前期授業終了 ※保育士課程の科目は7月29日まで授業を実施
7月25日(月) ～30日(土)	前期試験（保育士課程以外の科目）
8月 3日(水) ～ 5日(金)	追試験
8月 6日(土) ～9月24日(土)	夏季休暇
9月 6日(火) ～ 9日(金)	サマーセッション①
9月13日(火) ～16日(金)	サマーセッション②
9月26日(月)	後期授業開始
10月10日(月・祝)	「スポーツの日」ですが、通常の授業を実施します
11月 4日(金)	国学院大学創立記念日〈休講〉
12月24日(土)	年内授業終了
12月26日(月) ～令和5年1月6日(金)	冬季休暇
1月 7日(土)	授業再開
1月14日(土)	大学入試共通テストのため休講
1月23日(月)	後期授業終了 ※保育士課程の科目は1月30日まで授業を実施（29日を除く）
1月24日(火) ～30日(月)	後期試験（保育士課程以外の科目）
2月 7日(火) ～ 9日(木)	追試験
3月19日(日)	卒業式（予定）
3月22日(水) ～25日(土)	スプリングセッション

大学院学年暦	
4月 1日(金)	入学式
4月 1日(金) ～ 9日(土)	オリエンテーション、履修ガイダンス等
4月11日(月)	前期授業開始
5月 1日(日)	神殿鎮座記念祭
7月23日(土)	前期授業終了
7月25日(月) ～30日(土)	集中講義
7月25日(月) ～ 9月24日(土)	夏季休暇
9月26日(月)	後期授業開始
10月10日(月・祝)	「スポーツの日」ですが、通常の授業を実施します
11月 4日(金)	国学院大学創立記念日〈休講〉
12月24日(土)	年内授業終了
12月26日(月) ～令和5年1月6日(金)	冬季休暇
1月 7日(土)	授業再開
1月14日(土)	大学入試共通テストのため休講
1月23日(月)	後期授業終了
1月24日(火) ～30日(月)	集中講義
2月15日(水)	【文学研究科】最終試験
2月24日(金)	【法学・経済学研究科】最終試験
3月18日(土)	修了式

学問ノ道 第39回

「実事求是」を実践した法制史家 瀧川政次郎

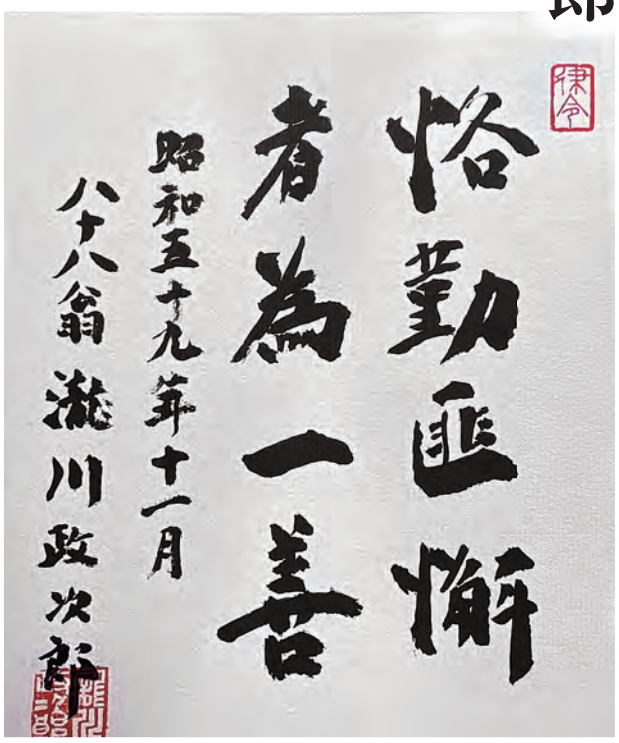
瀧川政次郎博士は、九州帝国大学法文学部教授、中央大学法学部教授、満州国司法部法学校教授、満州建国大学教授などを歴任し、昭和24年から国学院大学政経学部教授に（30年には、近畿大学兼任教授にも就任）、38年からは同法学部教授（法学部新設に伴う）に就任している。また、博士は実務経験も豊富で、戦後、満州から帰国すると、極東国際軍事裁判所特別弁護人を務め、23年には東京・神田で共同の法律事務所を開設している。

博覧強記の学者として知られる瀧川博士は、94年の生涯（1897～1992）でおよそ50冊の著書と30冊の編纂書を刊行している。これを論文数でいえば、900点を優に超えたものとなる。瀧川博士は、法制史という学問を、啓蒙的に世に知らしめ、法制史がいかに有用な学問であるのか訴え続けた学者であった。博士は、法制史が法律制度の変遷を辿る無味乾燥な学問になることを恐れ、国民の法律生活の実態を明らかにすることこそが、法制史家の使命であると考えたのである。博士の研究が、政治史、社会経済史、神道史、芸能史、生活文化史、人物史等にまで及んでいるのは、そのためである。日本の法律制度を論ずる際にも、古今東西の法律制度と比較した上で、その特徴を示し、歴史的評価を下すことが必要であると強調され、それを実践した。

博士が研究を行う際には、『淵鑑類函』（康熙49年成立、勅撰）、『天中記』（明の陳耀文の撰）、『古事類苑』などの類書を利用して徹底的に史料を集め、少しでも不明な点があれば、徹底的に追求し（「実事に是を求めた」）、専門家に直接問いただすことの労を厭わなかった。玉石混淆の史料の中から、本当に価値のあるものを見つけ出す眼識を博士は備えていたのである。また、調査を行う際には、学派、学閥にこだわらず、全国的組織を作り、衆知の結集を図ったが、これなどは実務経験上、より効率的な調査をなしうることがわかっていたからに違いない。

博士は生前、教え子たちに養老考課令善条の一文「恪勤匪懈者、為一善（恪み勤しむこと懈らざれば、一善と為よ）」を色紙に書いて与えていた。これは律令官人の評価基準を定めたものであったが、学者にも通ずるものであると考えたからである。博士はその経験から、「怠けることなく、地道に続けること」こそが学問の道であることを悟り、後学を戒めたのであろう。

瀧川政次郎



高塩博氏提供

法学部教授 長又高夫

オンライン公開講座

渋沢栄一の理念と国学院との関係に迫る

国学院大学エクステンションセンターは、「国学院に流れる渋沢栄一の理念と実践」をテーマに全4回のオンライン公開講座を開催している。4人の講師が本学とも深い関わりがあった渋沢栄一の思想や功績などをそれぞれの視点から考察し、解説する。渋沢への関心の高まりを受け、12月21日から追加で受講申し込みを受け付ける（**＝QRコード**。受講は有料）。

第1回は元NHKアナウンサーの松平定知本学客員教授が「7人の自分を生きた渋沢栄一」と題し、人物面から渋沢の実像や魅力に迫る。第2回ではエビスビール記念館前館長の端田晶氏が「戦前の日本ビール産業発展史～渋沢流産業育成の一事例～」とし、日本のビール産業発展への渋沢の貢献を説明。第3回では青木洋司文学部准教授が「紳士淑女となるために ―渋沢栄一が『論語』に学んだこと―」として、渋沢が論語から何を学び、道徳と利潤の追求の両立を目指すようになったかをひもといている。最終の第4回では杉山里枝経済学部教授が「渋沢栄一から今学ぶべきこと」として、渋沢思想の現代における意義を解説し、講座を締めくくる。

杉山教授は「渋沢は今の時代、社会につながる人物。現代企業にはSDGsなど社会を見据えた活動や志に基づくパーパス経営などが求められる。渋沢は当時から『道徳経済合一』として企業活動、利益を社会へ還元することを掲げており、渋沢の考え方が求められる時代になったと言える。同じく掲げた『合本』には、金融資本以外にも人や社会資本を合わせ経営に臨む、ひいては日本を合わせて新たな事業に臨むという意味が込められていたのではないか。利益至上とせず、自身が行動し周りの人々や日本を良くしたいという渋沢の姿は現代日本にとって強烈なメッセージ。経営者だけではない多面的な渋沢の姿を講座で知ってほしい」と語る。

渋沢は本学の母体である皇典講究所の顧問を務めるとともに資金も寄付し、本学の発展に協力したことが知られている。

渋沢栄一（国立国会図書館）

立科町から感謝状　五輪ホストタウン事業への協力で

国学院大学の厚生施設「蓼科寮」がある長野県立科町から両角正芳町長らが11月25日、渋谷キャンパスに来校。東京五輪にあたり同町がウガンダ共和国選手団を受け入れたホストタウン事業への本学の協力に対して感謝状が贈られた。

立科町と学校法人国学院大学は、平成30年に連携協力のための協定を締結。併せて陸上競技の中長距離種目で東京五輪に出場したウガンダ選手団が町内で事前合宿を実施するにあたって、蓼科寮を練習拠点とするための覚書を交わしていた。今年7月には、覚書に基づき8人の選手団が約2週間にわたって事前合宿を実施。同施設に滞在しながら標高1500㍍にある町内の施設で調整を重ねた。

両角町長は「（コロナ禍の中での）受け入れには賛否があったが、選手たちが今まで培ってきた力を出してもらうことが一番だった。（本学の協力に対して）町からの気持ちとして感謝申し上げる」と述べ、佐柳正三理事長は「運営に携わった方々は大変な苦労だったと思う。（ホストタウン事業によって）ウガンダの若い人たちが、日本、立科町、国学院大学を忘れないでくれれば大きな財産だ」と意義を強調した。

両角立科町長（写真右）と佐柳理事長

令和４年度国内外派遣研究員決まる

国学院大学の令和４年度国内および国外派遣研究員の「研究課題」研修先、派遣期間が次の通り決定した。

【国内派遣研究員】

◇**文学部**…淺井理恵子教授「ジェンダー・セクシュアリティ・人種でみる冷戦初期の米軍のマンパワー政策」東京大学アメリカ太平洋地域研究センター・図書室、国学院大学、10月１日～令和５年３月31日▽大久保桂子教授「Citizenship 概念の歴史的考察」一橋大学社会科学古典資料センターほか、４月１日～令和５年３月31日▽髙橋秀樹教授「史料学による鎌倉時代政治史の研究」東京大学史料編纂所、４月１日～令和５年３月31日▽三井はるみ教授「日本語諸方言における条件表現の研究」人間文化研究機構国立国語研究所、国学院大学図書館、４月１日～令和５年３月31日

◇**法学部**…中曽根玲子教授「金融商品取引法規制違反を原因とする株式取得の効力と会社法上の諸問題」早稲田大学、立教大学、国学院大学、４月１日～令和５年３月31日

◇**経済学部**…中馬祥子教授「資本主義世界経済の中の非市場労働：『広義の経済』学から社会連帯経済を考える」東京大学大学院人文社会系研究科、４月１日～令和５年３月31日▽根岸毅宏教授「アメリカ福祉に見る分権システムの研究」国学院大学経済学部818研究室、国学院大学図書館、４月１日～令和５年３月31日

◇**神道文化学部**…菅浩二教授「文化多様性に関する宗教学研究の方法的基盤についての調査」沖縄県立図書館、神奈川大学非文字資料研究センター、国立歴史民俗博物館、オーストリア科学アカデミー、ウィーン大学東アジア研究所図書館、４月１日～令和５年３月31日

◇**教育開発推進機構**…佐川繭子准教授「現代の漢文訓読法が有する問題について―『漢文教授ニ関スル調査報告』の受容および国語施策の影響という二つの観点から―」国立国会図書館、教育図書館、東書文庫、国学院大学図書館ほか、４月１日～令和５年３月31日

【国外派遣研究員】

◇**文学部**…淺井理恵子教授「ジェンダー・セクシュアリティ・人種でみる冷戦初期の米軍のマンパワー政策」メリーランド大学カレッジパーク校（米国）、４月１日～９月30日

◇**法学部**…川村尚子専任講師「デジタル・プラットフォーム規制と消費者保護～ＥＵ及びＥＵ加盟国における立法論の動向調査～」マックス・プランク外国私法及び国際私法研究所（ドイツ）、10月１日～令和５年９月30日

◆

このほか決定した今年度の派遣研究員の派遣期間延長および変更は次の通り。

【国外派遣研究員（期間延長）】

◇**法学部**…安田恵美准教授「刑務所出所者等の主体的な社会参加とそれを促進するための支援に関する日仏比較研究」ランス・シャンパーニュ・アルデンヌ大学（フランス）、令和３年10月１日～令和４年３月31日

【国内派遣研究員（国外派遣取り下げ）】

◇**文学部**…藤野寛教授「テオドール・Ｗ・アドルノの理論哲学および倫理学の体系的研究」国学院大学図書館、令和３年４月１日～令和４年３月31日

文学部講演会
装丁家 矢萩さんと言葉を考える

文学部講演会と外国語文化学科の「多言語・多文化の交流と共生」プロジェクトの共催として、画家で装丁家の矢萩多聞さんを講師に招いた講演会が11月13日、オンライン配信で開催された。

複数の文化や言語が交わる現場に着目する同プロジェクトは、10回目の開催。「ことばの道草　インドでぼくが教わったこと」と題して司会の笠間直穂子文学部准教授と矢萩さんの軽快な掛け合いで講演会は進んだ。

10代のころから南インドと日本を半年ごとに往復する生活をしていた矢萩さんは、多言語国家であるインドでの暮らしや人々の営みを紹介。『『もう十分』と意思を示すことが大事。『もう十分』と伝えないと現地の人はいつまでもご飯を給仕する」などと「生き方を変えた」という3つの言葉を披露した。

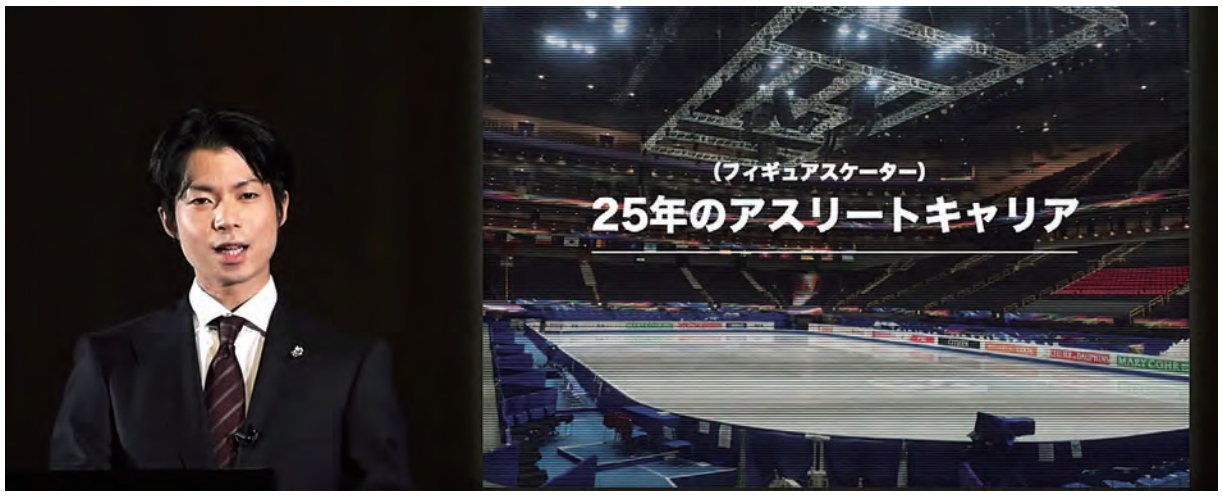
その後、本の魅力を引き出す装丁家としての仕事にも触れ「伝えることが大事といわれるが、言葉が多すぎては疲れてしまう。言葉が花開くときは、違うところで花開く。伝えようとしなくても何げない会話に救われることもある」と語って講演を締めくくった。

研究開発推進機構
神社本庁総合研究所と覚書

国学院大学研究開発推進機構と神社本庁総合研究所は11月5日、「研究協力に関する覚書」を神社本庁庁舎(東京都渋谷区)で交わした。

今回の覚書では、これまで本学が採択されてきた平成14年度「21世紀ＣＯＥプログラム」や28年度「私立大学研究ブランディング事業」をはじめとする研究プロジェクトでの研究協力体制を再確認し、継続的で柔軟な研究協力活動の推進を目的としている。

今後、この覚書に基づき、定期的な協議の場が設けられ、研究開発推進センターの研究事業を中心に研究協力を行うこととなる。



アスリートの「第二の人生」考える
文化講演会で町田樹助教

フィギュアスケート日本代表としてソチ冬季五輪などの国際舞台を経験した後に研究者へと転身した人間開発学部の町田樹助教を講師に迎えた令和3年度の国学院大学文化講演会が、YouTubeによる録画配信で限定公開（令和4年3月31日まで）されている**＝写真**。

講演のテーマは「大学で出会う新しい自分―アスリートのキャリアデザイン論」。アスリートが引退した後の「第二の人生（セカンドキャリア）」に焦点を当て、25年間に及ぶ選手生活の後に研究者の道を選択した町田助教の経験を踏まえながら「アスリートのセカンドキャリア選び」を解説。全盛期には安堵感・優越感だった競技への思いが「引退」がちらつき始めてからは「自分にはフィギュアスケートしかない」という焦燥感・劣等感に変わったことを挙げ、「自分から競技を取ったら何も残らない」というアイデンティティーの喪失が問題の本質にあることを指摘。さらに、「一般の人が60歳代以降にキャリアの転換期を迎えるのに対し、アスリートは20～30歳代という生活基盤も確立されていない早い時期に転身せざるを得ない事情がある」と強調した。

続いて「キャリアデザインのポイント」として、「早期にビジョンを描くことが重要で現役の終わりが見えてから考えていては遅い。大学卒業を引退時期と定めたら高校時代から家族や指導者など人生の先輩に相談することが大切」と述べた。

この中で、競技生活からセカンドキャリアへの移行期を淡水と海水が交わる汽水域や陸上競技リレー種目でバトンの受け渡しをするテイクオーバーゾーンに例えて同時並行で進めることを推奨。自らの経験をもとに「競技生活を『武』、セカンドキャリアへの準備を『文』と考えて相乗的な文武両道を目指すべきだ。進路が安定すれば、自信をもって競技にも臨める」とした。

講演会の視聴は本学ホームページ（**Qコード**）から申し込みを。

先輩に聴く

ブーム再来へ 浪曲の面白さ伝えたい

浪曲の若手曲師　沢村美舟さん（平27修・123期博前文、平25卒・121期日文）

三味線の音色に乗せ、特徴的な声と節で物語を語る浪曲。浪花節とも呼ばれ、落語、講談とともに日本三大話芸の一つに数えられる。沢村美舟さん（平27修・123期博前文、平25卒・121期日文）は、浪曲師と呼吸を合わせて三味線を弾き、合いの手を入れる浪曲には不可欠な曲師の若手注目株だ。

高校生のときに民俗学者で本学教授でもあった折口信夫先生の『日本藝能史六講』を読んで共感し、大学入学後は日本の古典文学を学ぶ傍らで歌舞伎や文楽などの伝統芸能をよく観に行っていた。大学院に進み、伝承文学のフィールドワークや研究に没頭したが、この頃には文楽の太棹三味線の響きが演奏者によって異なることにも興味が湧いていた。そうしたなか、曲師の大御所、沢村豊子師匠と出会い、師匠の三味線の音色の良さに圧倒された。新たな興味への挑戦心、探求心にあらがえず、弟子として師匠と四六時中行動をともにする道を選択。この日常を通じて浪曲の面白さを改めて知り、平成28年には初舞台を踏むことができた。

「一人一節」の言葉が示すように浪曲の節まわしは、同じ演目でも浪曲師によって異なり、さらに、その日の客席の雰囲気などに応じて節や啖呵を自在に変える。これに曲師として上手に掛け合いができるかが難しい点でもあり、面白いところでもある。重要なのは浪曲師がどういう方向に語ろうとしているかを瞬時にくみ取り、浪曲師が描きたい世界観を協力して作り上げることだ。これが感動を生み出す極意でもある。息の合った舞台ができないと浪曲師から曲師に指名してもらうことができない。だからこそ日頃から研鑽に励み、感謝の気持ちを忘れないように過ごしている。

さわむら・みふね
国学院大学文学部日本文学科卒業、同大大学院文学研究科博士前期課程修了、日本浪曲協会主催の三味線教室で学んだのち、沢村豊子師匠に師事、平成28年に東京・浅草「木馬亭」で初舞台。現在は木馬亭をはじめ全国で浪曲公演の舞台に立つ。

浪曲は伝統芸能というよりは大衆芸能であり、言葉使いも平易で内容も実に俗っぽいところが面白い。このことを多くの人に知ってもらい、浪曲ブームを再び巻き起こしたいと願っている。

座右の銘は「行雲流水」。行く雲や流れる水のように自然の成り行きに任せて行動するという意味だ。今、学生の皆さんが大変な状況にあることは容易に想像がつく。先行きが見通せない時代だからこそ、自分が掲げた目標にかたくなに縛られることなく、目の前で起こる事象に真剣に向き合うのも一つの考え方だと思う。直面することに真剣に向き合い、努力を重ねれば新たな可能性が開かれるのでは。（談）

文学部・小川直之教授に聞く

日本の成年の歴史をひもとく「いくつもの大人」―像―

烏帽子を被る大人／『羅生門絵巻』巻一（17世紀半ば、国学院大学図書館蔵） 烏帽子・侍烏帽子を被り、ひげを生やした大人に対し、子どもたちには頭の被り物はない

文学部教授 小川 直之

おがわ・なおゆき 博士（民俗学）。本学折口博士記念古代研究所、柳田国男記念伊那民俗学研究所所長。国内のみならずアジア各地の民俗について比較研究を行っている。

成年年齢が令和4年4月1日から、現行の20歳から18歳に引き下げられる。成年の定義が見直されるのは明治9（1876）年以来、約150年ぶり。自分の意思でさまざまな契約ができるようになるほか、公認会計士や司法書士などの資格も取得できるようになるほか、法律上の決まりはなく、各自治体の判断で行われる。日本の歴史上、「成年」はいつ定義され、時代ごとにどんな意味を持っていたのか。民俗学を専門にする文学部の小川直之教授に聞いた。

平安時代に「成人」の記述 明治時代からは兵役と深い関係

日本で「成人」や「成年」という記述が登場するのは平安時代に遡る。現在は「成人式」から「成人」という言葉の方がイメージが強いが、法律上は「成年」とされている。

平安時代末期の国語辞典『色葉字類抄』を見ると、成人という言葉が「成長する」という意味で使われている。また、中世の文学『曽我物語』では「子の成人を願ひしぞかし」と、「子の成長を願う」という意味の記述がある。

8333年に編纂された律令の解説書『令義解』でも成人という言葉が出てくる。こちらは「成年に達した者」という使われ方で、現在の「成人」に近い意味。『平家物語』でも大人という意味で「成人」の記述がある。

国の法制上では、明治9年に「自今満弐拾年ヲ以テ丁年相定候」という太政官布告が出されている。この「丁年」というのは、古く8世紀の「大宝令」に遡り、その後もこの用語が使われていく。21歳（数え）から60歳までの男性を正丁といい、兵役と課税対象者となった。正丁の年齢に達したものが「丁年」である。「日本は制度や文化が非常に長く続く国。この用語と考え方が明治時代まで続いた」（小川教授）。

この太政官布告の3年前、明治6年には『徴兵令』が制定され、「徴兵は20歳に至るもの」と決められた。これを補完する意味で先の太政官布告で「丁年」を定めたとも見てとれる。ただ、実際に徴兵されるのは全体の3、4％だったというから拘束力は強くなかった。小川教授は「家を継ぐ長男や、お金を納めた富裕層など免除規定が非常に多かった」と説明する。

今でいう「成年」の規定は明治29年制定の民法で、これでは第3条で「満二十年ヲ以テ成年トス」としている。これが今まで続いてきたが、昭和になると、庶民感覚としては昭和2年公布・施行の『兵役法』が大きな意味をもった。明治の『徴兵令』とは異なり徹底された兵役義務だった。「第二次世界大戦中までに出生した人たちは、徴兵検査をもって成年、成人と考えた方が多い」（小川教授）。

庶民世界の「大人」には「3つの基準」があった

そもそもなぜ成年という考え方があるのだろうか。小川教授は「国家制度として義務と権利を考える時に一定のところで線を引かねばならない。男女、年齢をもとにした線引きが必要だった。これが法令としての『成年』で、こうした考え方はすでに奈良時代以降の『元服』にもある」と解説する。

一方、法令ではなく庶民生活の中でみていくと「男子15歳、女子13歳を成年とすることが戦後社会まで続いていた。これは女性は初潮、男性は精通が始まり、肉体的に大人となる時期を成年とした」（小川教授）。

この年齢に達すると男性は「若者組」、女性は「娘組」と呼ばれる組織に入る。若者組は明治時代以降、青年会・青年団へと展開していくが、これは消防活動などを行う地域の自衛組織で、この中で地域社会の一員として育っていった。「若者条目」と呼ばれる組織ごとの決まりがあり、船の遭難や出火では、若者たちが駆けつけて対処しなければならないとされていた。厳しさがある一方、村の祭りを受け持つなど楽しみもあった。これへの加入が「ムラの大人」入りであった。

娘組も男性と同様、一つの場所に集い裁縫などを習い、家事技術の向上を目指した。

小川教授は「若者宿といって男女別々に集まり、寝泊まりをする場所があり、男女の交流もあった。若者組や娘組が強い地域は若者に性の選択権があり、恋愛の自由度が高かった」と説明する。

また、江戸時代までの絵巻物を見ていくと、成年の年齢に達していることが視覚的に明確だったのがわかる。武家社会では男性は烏帽子をかぶるのが成年の証しだったし、女性は13歳になるとお歯黒を塗った。身分や年齢が可視化された時代だった。いわゆる加冠式などと呼ばれる儀礼はこの考え方である。

小川教授は「大人と判断される基準はもう一つある」と話す。それは「一人前」という基準である。例えば男性の場合は、鍬で田畑を1日に1反耕すことができれば一人前とされた。女性は反物を1日に1反織ることが一人前の証しだった。

整理すると戦後社会までの「大人」の基準には①年齢に基づく基準、②肉体的な成熟による基準、③「一人前」（実力主義）かどうかの基準、という3つがあったことになる。

小川教授は「国家が定める『大人』と、地域社会が認める『大人』が異なり、基準は多様だった。現代が無理に一つの基準に当てはめようとしているのでは」と話す。

「大人」とは何か、深く考えて 信頼できる人との繋がりも大事

成年年齢の引き下げについて、小川教授は、「世界の多くの国々が18歳を成年とする流れの中で、日本も18歳を成年とすることに違和感はない」とした上で「もっと自分の知識や技を磨き、実力を志向する若者たちが出てきてもいいように感じる。国家制度としては18歳という一つの年齢にせざるを得ないかもしれないが、学生たちには一つに考えずに大人とは何かを考えてほしい」と訴える。

現在も職人などのように「技」が基準となる世界では「一人前」を重視し、修業はこれを目標としている。自分自身の「大人」の要件は何か、そのためにどんな目標を立て、どんな課題をクリアしなければならないのか考えてほしいということである。

小川教授はまた、自分の親や家族だけではなく、自分のまわりで信頼できる相手を見つけることも大切だと指摘する。戦後までは、男性は15歳の成年となった時に「烏帽子親」などといって、親以外に別の「親」を立てる慣習があったという。

小川教授は「成年を迎えるということは、自分をどう成長させるかということと、新しい人間関係を構築すること。未来に向かって進んでほしい」とエールを送る。

（小川教授提供）

（小川教授提供）

成人式発祥地碑（宮崎県諸塚村） 当村では昭和22年から男性20歳、女性18歳を対象に「成人祭」を始めた。同年には埼玉県蕨町（現・蕨市）でも「青年祭」と称して現在の成人式につながる式典を始めている。ただし、「成年式」は昭和9年には名古屋市連合青年団が満20歳の者を対象に行っている。

成人年齢の引き下げで 変わるもの 変わらないもの

「18歳（成年）から」に 変わるもの

①親の同意を得ない契約
- 携帯電話の購入、契約
- アパートなどの契約
- クレジットカードの作成　など

②10年間有効のパスポート取得
③公認会計士、司法書士など国家資格の取得

「20歳から」で 変わらないもの

①国民年金の加入義務
②飲酒、喫煙
③公営競技（競馬、競輪など）の投票券の購入
④大型・中型自動車免許の取得

（法務省の資料から）

詳報は本学HP「国学院大学メディア」に掲載

第17回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト

折口信夫賞に湯浅綾さん（東京大教育学部附属中等教育学校

「地域の伝承文化に学ぶ」コンテストは、各地に伝わる昔話や伝説、郷土料理や方言など身近な「地域社会」に目を向け、文化を掘り起こして向き合うことによって現在の私たちにできることを考えてもらおうと開催。本学の持つ伝承文化に関する資産に触れることで研究を深めてもらうことも狙い、17回目を迎えた今回は全国から276点の応募があった。内訳は、地域文化研究部門の団体21点・個人198点▽地域民話研究部門の団体7点・個人40点▽学校活動10点―だった。

最も優秀な作品に授与される折口信夫賞に地域文化研究部門《個人》最優秀賞の「関西弁は広まっているのか～東京と関西の高校生から考えて～」（湯浅綾さん、東京・東京大教育学部附属中等教育学校3年）＝**写真**＝が選ばれたのをはじめ、最優秀賞、優秀賞が**別表**のように決まった。

オンライン表彰式では石川則夫・副学長の挨拶（代読）、森伸一・若木育成会会長（同）と坂本眞佐人・国学院大学院友会常務理事の祝辞が伝えられた後、各部門最優秀賞の受賞者が研究内容を披露した。

佳作、入選は次の通り（敬称略）。

地域文化研究部門（団体）

【佳作】

『萬歳楽』紙芝居プロジェクト」（島根・吉賀高　HINA&SORA）▽「幻の駅弁鮎寿司を追う」（神奈川・足柄高　歴史研究同好会）

地域文化研究部門（個人）

【佳作】

「小谷と下細谷におけるささら獅子舞の比較研究」関口莉音（埼玉・筑波大学附属坂戸高2年）▽「秩父神社系統の神楽の独自性に迫る―寶登山神楽を事例に―」手嶋友希（埼玉・熊谷西高3年）▽「川の速さと流れの特徴から河川の伝統工法『聖牛』について考える」持田貴大（東京・玉川学園高等部2年）

地域民話研究部門（団体）

【佳作】

「足立山麓の和気清麻呂伝承」（福岡・小倉東高　地域探求ゼミ）▽「関東唯一の鬼を祀る神社『鬼鎮神社』について～川島地域と鬼の関係～」（東京・大妻中野高　鬼研究会）

地域民話研究部門（個人）

【佳作】

「佐賀県唐津市の松浦佐用姫伝説～松浦佐用姫石化伝説について～」山崎美紗子（佐賀・唐津東高2年）

【審査員＝敬称略**】**

小川直之（本学文学部教授）▽大石泰夫（本学文学部教授）▽八木橋伸浩（玉川大学教授）▽飯倉義之（本学文学部准教授）▽佐藤美穂（本学客員教授）▽高橋大助（本学文学部教授）▽服部比呂美（本学文学部准教授）

折口信夫賞

「関西弁は広まっているのか～東京と関西の高校生から考える～」
湯浅綾（東京・東京大学教育学部附属中等教育学校3年）

地域文化研究部門

団体

優秀賞
- **「泉町の宝が示す可能性～高校生ハンターの挑戦～」**（熊本・八代農業高〈泉分校〉地域探求班）
- **「駿河湾産サクラエビ食文化継承のための考察」**（静岡・静岡高 郷土研究部公民班）
- **「栃木県のサメ食文化の変容について」**（栃木・矢板東高 リベラルアーツ同好会）

個人

最優秀賞
- **「関西弁は広まっているのか～東京と関西の高校生から考える～」**湯浅綾（東京・東京大学教育学部附属中等教育学校3年）

優秀賞
- **「鳥居の強度の秘密とは～熊本地震と鳥居の被害・再建～」**藤本彩佳（熊本・熊本学園大学付属高3年）

地域民話研究部門

団体

最優秀賞
- **「伊予の国小野谷に残る小野小町伝承の謎を解く」**（愛媛・松山北高 郷土研究部）

優秀賞
- **「頼朝を中心とした伊豆の伝説について」**（静岡・韮山高 文芸郷土研究部）

個人

優秀賞
- **「昔話と『化ける』動物たち ～狐が『化け狐』と呼ばれるようになったわけ～」**落合佑香（神奈川・平塚中等教育学校3年）
- **「ガーナー森伝説 ―化物森はどのように誕生したのか―」**屋嘉部遥菜（沖縄・昭和薬科大学附属高2年）

学校活動部門

優秀賞
- **「幻の『八郎様祭』～知られざる伝承の謎を解く～」**（福岡・朝倉高 史学部）
- **「伝統芸能継承活動の意義 ―『会津坂下の早乙女踊り』継承活動を通して―」**（福島・会津農林高 早乙女踊り保存クラブ）
- **「小豆島中山農村歌舞伎」**（岡山・岡山学芸館高 歴史地理探求ゼミ）

（敬称略）

高校生コンテスト入賞作決まる

4000点近く増え 応募総数1万8553点

国学院大学とスクールパートナーズ（高校生新聞社）による第25回全国高校生創作コンテスト（協賛：国学院大学若木育成会・国学院大学院友会・国学院大学北海道短期大学部、後援：文部科学省・全国高等学校長協会・全国高等学校国語教育研究連合会・日本進路指導協会）と、第17回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト（協賛：国学院大学若木育成会・国学院大学院友会・国学院大学北海道短期大学部、後援：文部科学省・農林水産省・全国高等学校長協会・日本進路指導協会）の入賞作が決定し、12月5日にオンラインによる表彰式が行われた。応募作品数は両コンテスト合わせて1万8553点で、コロナ禍の影響を受けた前回を4000点近く上回った。

※両コンテストの最優秀賞作品は本紙来年2月号に掲載予定

第25回 全国高校生創作コンテスト

文部科学大臣賞に海城高（東京）

全国高校生創作コンテストは、創作活動を通じて文章を書く喜び、ものを創り出す苦しさ、自分の考えを言い表す難しさを感じ取りながら、美しい日本語の再発見と学習を目的として平成9年から開催されている全国規模のコンテスト。今回で25回目を迎え、全国から1万8277点の応募があった。内訳は、短篇小説の部7785点▽現代詩の部5855点▽短歌の部4738点▽俳句の部1万2169点―だった。

審査の結果、最優秀学校賞の文部科学大臣賞に海城高（東京）＝**写真**＝、特別学校賞に国際基督教大学高（同）が選ばれ、各部門の最優秀賞、優秀賞もそれぞれ**別表**のように決まった。

オンライン表彰式では石川則夫・副学長の挨拶（代読）、森伸一・若木育成会会長（同）と坂本眞佐人・国学院大学院友会常務理事の祝辞が披露され、受賞した高校生を激励。各審査員からは4つの部門ごとに講評が伝えられた。

佳作、入選作は次の通り（敬称略）。

短篇小説の部

【佳作】

「羽衣娘」山城昌怜（沖縄・那覇高3年）▽「電ウツボ」長谷井佑香（神奈川・横浜サイエンスフロンティア高2年）▽「伝染する青」池田愛生子（千葉・二松学舎大学附属柏高3年）▽「ドアの向こう」芹田敦史（福岡・北筑高2年）▽「夏の日の夢」東那侑多（新潟・長岡工業高専3年）

【入選】

「ふくろう」中原飛鳥（北海道・札幌旭丘高3年）▽「命のベッド」稲岡歩望（兵庫・小野高2年）▽「誰もいない世界へ」山本柚葉（兵庫・小野高1年）▽「青のリズム」田中千聖（東京・桐朋女子高2年）▽「朝の匂い。」平井華乃果（岡山・津山工業高専2年）▽「水際のひとり言」川上心音（広島・AICJ高2年）▽「私の色、桜色。」有賀結菜（埼玉・浦和第一女子高1年）▽「月夜にボトルメール」岡本芽依奈（兵庫・白陵高2年）▽「ナポリタンアイス」瀧本早蘭（山梨・甲府第一高2年）▽「傷跡」山本理恵（北海道・北星学園女子高3年）

現代詩の部

【佳作】

「うらがわ」田野美珠稀（神奈川・川崎高2年）▽「言葉と、それから」高橋尚暉（群馬・東京農業大学第二高2年）▽「ハモニカ横丁」高橋理生（東京・開成高2年）▽「アニモ」浅見亮太（東京・麻布高2年）▽「あなたと出会ってこの世界が少しだけ変わった。」関野実優（神奈川・麻生高1年）

【入選】

「咲き残るものたちのために」照屋アリサ（神奈川・川崎高3年）▽「いとこ」塚越珠雫（岡山・津山工業高専1年）▽「風船葛」泉まいこ（神奈川・湘南高1年）▽「私のバッタ」處結月香（神奈川・横浜雙葉高3年）▽「苔」豊田集人（東京・国際基督教大学高2年）▽「旱星」跡部日南子（神奈川・横浜雙葉高3年）▽「だから差別はいつもある」蒋騰（東京・海城高1年）▽「夏の晴れた暑い日が非常によく似合う犬」渡邉瑞紀（神奈川・湘南白百合学園高2年）▽「弾丸」浪花小槙（東京・豊多摩高1年）▽「アインシュタインに舌を出す」薗田希夢（奈良・西大和学園高1年）

短歌の部

【佳作】

早川彰太郎（福岡・西日本短期大学附属高2年）▽翁謀業（東京・墨東特別支援学校2年）▽加藤結衣花（茨城・結城第二高3年）▽山口雄大（福岡・西日本短期大学附属高2年）▽杉本詠太（神奈川・戸塚高2年）

【入選】

江川颯太（福岡・西日本短期大学附属高2年）▽長谷川万葉（京都・洛南高3年）▽岩島圭汰（岐阜・恵那高2年）▽水野春予（大阪・咲くやこの花高2年）▽原口来瞳（兵庫・武庫荘総合高2年）▽増田一太（群馬・太田高1年）▽石崎愛佳（山口・岩国総合高2年）▽長谷川颯生（青森・五所川原高2年）▽宮本稜也（群馬・太田高2年）▽中原菜々海（福岡・西日本短期大学附属高2年）

俳句の部

【佳作】

魚地妃夏（神奈川・慶應義塾湘南藤沢高等部2年）▽菊間麻涼（静岡・加藤学園高1年）▽冨里光詩（愛媛・松山工業高3年）▽南幸佑（東京・海城高2年）▽落井源真（福井・武生高3年）

【入選】

戒能李咲（福島・安積黎明高1年）▽中井道満（京都・北嵯峨高1年）▽井澤里映（和歌山・和歌山信愛高1年）▽江藤雄士（埼玉・星野高2年）▽渋谷和真（秋田・秋田高1年）▽金井つぐみ（山口・柳井学園高1年）▽鈴木美冬（北海道・旭川実業高1年）▽江﨑麗菜（福岡・西日本短期大学附属高2年）▽清水一澄（千葉・芝浦工業大学柏高3年）▽小林菜々美（東京・国際基督教大学高2年）

【審査員＝敬称略**】**

中村航（作家）▽井上孝雄（東京都立高教諭）▽水無田気流（詩人・本学経済学部教授）▽田中章義（歌人）▽堀本裕樹（俳人）▽村田光英（高校生新聞社編集局長）

文部科学大臣賞

海城高（東京）

特別学校賞

国際基督教大学高（東京）

短篇小説の部

最優秀賞
- **「ゴッホの書いた世界と見えない赤信号」鈴木陽菜**（兵庫・賢明女子学院高3年）

優秀賞
- **「閉じ込められた音楽」宮脇和希**（愛媛・愛媛大学附属高2年）
- **「人魚」小川友希**（東京・立川国際中等教育学校2年）

現代詩の部

最優秀賞
- **「ねじねじおじさん」浜田桃実**（福岡・久留米大学附設高2年）

優秀賞
- **「セレモニーのあの子」鹿島あかり**（愛知・中京大学附属中京高2年）
- **「ぽんやりと」岩田一心**（千葉・市川高3年）

短歌の部

最優秀賞
- **小沢真奈**（東京・東京純心女子高2年）

優秀賞
- **矢吹里穂**（神奈川・横浜雙葉高3年）
- **焼山美羽**（東京・開智日本橋学園高3年）

俳句の部

最優秀賞
- **植松幹太**（福岡・西日本短期大学附属高2年）

優秀賞
- **毛塚悠斗**（茨城・結城第二高 フレックス4年）
- **川田暖士**（東京・昭和高3年）

（敬称略）

主催者挨拶・祝辞（要旨）

◆全国高校生創作コンテスト

【主催者挨拶】石川則夫副学長

多くの言葉が消費されるばかりの状況においても自らの言葉を工夫しつつ、自己表現への想いを日本文学の様式に仕上げていこうとする高校生の努力は大変貴重で日本語の限りない可能性を感じる。

【祝辞】若木育成会・森伸一会長

文字による自己表現は、スポーツや音楽とはまた別な醍醐味がある。皆さんの持っている〝創作の翼〟がより大きく、より力強くなり、今後とも魅力的な作品が生まれ出ることを期待している。

【祝辞】院友会・坂本眞佐人常務理事

コロナ禍において高校生活にも苦労がある中、過去5年間で最多の高校が応募したと聞き、コンテストの意義の大きさを感じた。高校生の皆さんには目標に向かって存分に力を発揮するよう願う。

◆「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト

【主催者挨拶】石川則夫副学長

多くの調査レポートが応募され、日常生活における気づきにくいところに注目した点に意義深いものと感じた。このレポートを出発点として地域の伝承文化の意義を現代社会へ発信し続けてほしい。

【祝辞】若木育成会・森伸一会長

「地域の伝承文化を学ぶ」ことが源泉となり、地域の活性化や魅力度の向上に繋がるものと信じている。地域の貴重な財産となるので、より多くの方々に皆さんの成果が紹介されることを望む。

【祝辞】院友会・坂本眞佐人常務理事

国学院大学は来年4月、「地域を見つめ地域を動かす」をコンセプトとした観光まちづくり学部を新設する。地域を活性化させるという点で本コンテストと共通する新学部で研究を進化させてほしい。

最優秀賞受賞者　喜びの声

折口信夫賞・地域文化研究部門(個人)　湯浅綾さん（東京・東京大教育学部附属中等教育学校3年）

神戸に住んでいた経験を生かし、1年半かけてやってきたものを評価していただけて光栄です。関西弁を通して地域の良さを改めて実感したため、地域のコミュニケーションについて学び、それを地域の活性化に繋げていきたいと考えています。

地域民話研究部門(団体)　愛媛・松山北高　郷土研究部（代表：大家帆香さん）

昨年度の優秀賞を超えることが目標だったので、最優秀を頂けて大きな達成感を感じました。難しい資料を読むには日本史の基礎的知識が大切と分かり、授業で学んでいないことも自主的に調べ、文献からどんなことが分かるのかに気付けるようになりました。

高校生向けコンテスト『入賞作品集』を製作中

今回のコンテスト入賞作品を掲載した「全国高校生創作コンテスト入賞作品集」「『地域の伝承文化に学ぶ』コンテスト入賞作品集」を来年2月下旬に刊行の予定です。両作品集は無料配布いたします。発送をご希望の場合は、希望部数と送付先を**下記**までご連絡ください。

問　総合企画部広報課（☎03・5466・0130）

最優秀賞受賞者　喜びの声

短篇小説の部　鈴木陽菜さん（兵庫・賢明女子学院高3年）

自己満足の域を出なかったものを応募するに至ったのは、小説が私自身への一種の戒めを込めたものだからです。実際に作品を作るという体験を通し、どのようなものであれ創作物は作者の労力と工夫、そして強い思いの賜物なのだということを知りました。

現代詩の部　浜田桃実さん（福岡・久留米大学附設高2年）

受賞作は徹夜明けの朝に頭に浮かんできました。当時、私は新型コロナウイルス感染症で2、3週間ほど家の一部屋に隔離され、不安に押しつぶされそうでした。コロナになっていなければできなかった作品で、「人間万事塞翁が馬」だと実感しました。

短歌の部　小沢真奈さん（東京・東京純心女子高2年）

応募理由は自分の気持ちを言葉で表現することに挑戦したかったから。雨にも風にも負けてしまうならば、せめて傘を差し出せる優しさを心に持ちたいとの思いの全てを、31文字に託しました。創作を通じて言葉の持つ可能性を感じることができました。

俳句の部　植松幹太さん（福岡・西日本短大附属高2年）

私は硬式野球部に所属していますが、監督からも言葉を獲得して自分が思ったことや感じたこと、考えたことを言葉として表現するように言われています。自分を見つめ、それを表現していくことで少しずつ成長できているように感じます。

インフォダイジェスト

…在学生　…保護者　…卒業生　…一般　…受験生
内内容　日日にち　時時間　場場所　対対象　申申し込み　料料金　問問い合わせ

大学からのお知らせ

年末年始の事務休止

内12月25日(土)から令和４年１月７日(金)まで、渋谷・たまプラーザ両キャンパスの全事務室は閉室となります。期間中は、証明書自動発行機の利用もできません。授業開始は１月８日(土)です。

大学入試に伴う入校制限

内令和４年度大学入学共通テストおよび本学一般選抜入学試験実施のため、会場となるキャンパスへの入校を**右上表**の通りに制限します。なお、該当期間は課外活動を行うことができません。

令和４年度大学院春季入試

内国学院大学大学院博士前期課程および同後期課程では、**右下表**の日程で令和４年度春季入試を実施します。出願に関する問い合わせは**下記**まで。

問大学院事務課（☎03・5466・0142）

◆大学入学共通テスト

	日	時	立入制限区域など
渋谷キャンパス	１月14日(金) 入学試験準備日	終日	若木会館、百周年記念館（地下１・２階、３・４階）
		正午以降	130周年記念５号館
		17時以降	総合学修館（６号館）
		19時30分以降	120周年記念１号館、３号館
		21時以降	120周年記念２号館
	１月15日(土)・16日(日) 入学試験当日	終日	120周年記念１・２号館、３号館、130周年記念５号館、総合学修館（６号館）、若木会館、百周年記念館（地下１・２階、３・４階）

※若木タワー、学術メディアセンター、百周年記念館（１・２階）、国際交流センターは立入制限区域ではありません
※国際交流センターと院友会館の通用門は1月14日(金)17時から16日(日)まで封鎖

◆本学一般選抜入学試験

		日	時	立入制限区域など
渋谷キャンパス	A日程	２月１日(火) 入学試験準備日	終日	120周年記念１・２号館、３号館、130周年記念５号館、総合学修館（６号館）、若木会館、百周年記念館（地下１・２階、３・４階）
			19時30分以降	学術メディアセンター
		２月２日(水)～４日(金) 入学試験当日	終日	120周年記念１・２号館、３号館、130周年記念５号館、総合学修館（６号館）、学術メディアセンター（博物館を除く）、若木会館、百周年記念館（地下１・２階、３・４階） ※若木タワーのロックアウトは、若木タワーで入学試験を行う場合に実施する
	B日程	３月１日(火) 入学試験準備日	終日	120周年記念１・２号館、３号館、130周年記念５号館、総合学修館（６号館）、若木会館、百周年記念館（地下１・２階、３・４階）
			19時30分以降	学術メディアセンター
		３月２日(水) 入学試験当日	終日	120周年記念１・２号館、３号館、130周年記念５号館、総合学修館（６号館）、学術メディアセンター（博物館を除く）、若木会館、百周年記念館（地下１・２階・３・４階） ※若木タワーのロックアウトは、若木タワーで入学試験を行う場合に実施する

※２月１日(火)17時～４日(金)、３月１日(火)17時～２日(水)：国際交流センターと院友会館の通用門は封鎖

		日	時	立入制限区域など
たまプラーザキャンパス	A日程	２月１日(火) 入学試験準備日	14時以降	１・２・３・５号館、Sports Square １・３、若木21
		２月２日(水)～４日(金) 入学試験当日	終日	１・２・３・５号館、Sports Square １・３、若木21
	B日程	３月１日(火) 入学試験準備日	14時以降	１・２・３・５号館、Sports Square １・３、若木21
		３月２日(水) 入学試験当日	終日	１・２・３・５号館、Sports Square １・３、若木21

イベント

オンライン生きがい講座「すきま時間をつかって親子で楽しく運動あそび」

内成長の著しい幼児期は、遊びを中心に、生活に関わるさまざまな動きを含め、一日“60分以上”体を動かすことが望ましいといわれています。本講座では、おうちのすきま時間を使って親子で手軽にできる運動あそびを紹介します。ぜひ、親子で参加してみませんか。講師はレクリエーション・インストラクターの青木康太朗・人間開発学部准教授。ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を使って配信。

日・時１月22日(土)10時～11時
対幼児とその保護者（お孫様とのご参加も歓迎）
料無料
申本学ホームページ（ＱＲコード）もしくはＦＡＸ（FAX045・910・3754）で。申し込み受け付け開始は12月22日(水)10時。　※100組先着順
問人間開発学部 地域ヘルスプロモーションセンター

新型コロナ関連のお知らせ

感染が疑われたら保健室に連絡を

内新型コロナウイルス感染症と診断された方、疑いがあると言われた方は、必ず保健室にメールか電話で連絡をしてください。
▶保健室アドレス✉hoken@kokugakuin.ac.jp
▶渋谷ＴＥＬ（平日・土曜９時～16時30分）
☎03・5466・0148
▶たまプラーザＴＥＬ（平日・土曜９時～16時）
☎045・904・7660

大学院 令和４年度春季入試日程

研究科		入試区分	専攻	募集人員	願書受付期間	試験日合否発送	手続期間
文学	前期	一般	神道学・宗教学	７名	令和４年１月12日(水)～19日(水)	【試験日】２月14日(月) 【合否発送】２月18日(金)	２月25日(金)～３月４日(金)
			文学	９名			
			史学	９名			
		留学生	神道学・宗教学	若干名			
			文学				
			史学				
		学内成績選考	神道学・宗教学				
			文学				
			史学				
		学外成績選考	文学				
		社会人	神道学・宗教学			【試験日】２月21日(月) 【合否発送】２月24日(木)	
			文学				
			史学				
	後期	一般	神道学・宗教学	３名			
			文学	８名			
			史学	８名			
		留学生	神道学・宗教学	若干名			
			文学				
			史学				
		社会人	神道学・宗教学				
			文学				
			史学				
法学	前期	一般	法律学	５名	令和４年１月17日(月)～24日(月)	【試験日】２月23日(水・祝) 【合否発送】２月24日(木)	
		学内論文選考					
		留学生		若干名			
		学内成績選考					
		社会人					
	後期	一般		５名			
		留学生		若干名			
経済学	前期	一般	経済学	５名			
		留学生		若干名			
		学内推薦					
		社会人					
	後期	一般		５名			
		留学生		若干名			
		社会人					

学寮のご案内

コロナ禍で「人との繋がり」に再注目 ～在学生の途中入寮が増加中～

国学院大学は、本学学生専用の男子寮「学寮 まほろば」、女子寮「学寮 常磐木」を設け、地方出身の学生の生活を支援しています。

学びに集中できる設備と環境を整え、学生寮ならではのサポートで、学生生活を支えています。（完全個室制、朝夕食事提供あり、寮長・寮母常駐）

在学生の皆さまで、令和４年４月からの入寮をご希望の方は、下記までお問い合わせください。諸条件は大学ＨＰ（ＱＲコード）などで確認を。

問い合わせ先
●学寮 まほろば㈱共立メンテナンス　☎0120-88-1030
●学寮 常磐木 学生事務部学生生活課☎03-5466-0145

※２つの学寮では、新型コロナウイルスの感染防止のため日々対策に取り組んでいます

硬式野球部

「日本一は後輩に」
明治神宮大会ベスト４

大学野球で秋の日本一を決める明治神宮野球大会（大学の部）が11月20～25日、神宮球場（東京都新宿区）で行われ、11年ぶり２回目の出場の国学院大学硬式野球部は、前回出場時を上回るベスト４で大会を終えた。大学の部の優勝は中央学院大学（関東五連盟第一代表）。

４年生を中心とした「全員野球」で東都リーグを春秋連覇した本学は、春の全日本大学野球選手権で果たせなかった日本一に挑んだ。

東北三連盟代表の仙台大学との対戦となった１回戦（21日）。序盤に先制を許し、２点を追う八回、代打・青木寿修選手（経ネ３）の適時打で１点を返す。さらに１死満塁と好機を広げ、２番・川村啓真選手（経４）が走者一掃の適時三塁打を放ち逆転に成功した。続く３番・山本ダンテ武蔵選手（経４）の犠飛で追加点を挙げた同部は、５－３で大会初勝利を挙げた。

九州産業大学（九州三連盟代表）との２回戦（23日）は、公式戦初先発の武内夏暉投手(健体２)が八回２死まで１人の走者も許さない完璧な投球で完封し、球場を沸かせた。打線は、三回に４番・福永奨主将(健体４)の適時打で１点を先制し、八回には６番・伊東光亮選手(経１)、７番・柳舘憲吾選手(法１)の１年生コンビに連続適時打が飛び出して３点を加え、試合を優位に進めた(４－０)。

決勝進出をかけた中央学院大学戦（24日）は初回から投手陣が崩れ、二回までに６失点。打撃陣は、四回に柳舘選手の２ランで追い上げたが、その後は相手投手陣の継投の前に沈黙した。九回は、３連続四球で無死満塁の好機を作るも後続が凡退し、念願の日本一への道はベスト４で途切れた（２－６）。

高校の部には、国学院大学久我山高校が37年ぶり２回目の出場。開幕ゲームで花巻東高校と対戦した。中盤まで３－２で接戦を繰り広げたが、終盤に集中打を浴び３－６で初戦敗退となった。

決勝の３点適時三塁打を放つ川村選手（１回戦）

公式戦初先発で完封勝利の武内投手（２回戦）

監督・選手の声

鳥山泰孝監督「歴史を変えてくれた４年生に感謝したい。一気に頂点に駆け上りたかったが、甘くなかった。負けて本気で涙を流す選手が何人もいた。成功と失敗を経験できた貴重な１年を４年生は次のステップに、３年生以下は来年以降のチームに生かしてほしい」

福永主将「これまで仲間が頑張ってくれた。（準決勝は）自信をもってサインを出した球を打たれてしまった。日本一を目指してやっていたが悔しい結果に終わってしまった。悔しさを忘れることなく、後輩たちは頑張ってほしい。（明治神宮大会では）１勝をする難しさを感じた」

陸上競技部

箱根駅伝 エントリー選手発表

今年10月の出雲駅伝（出雲）、11月の全日本大学駅伝（全日本）でいずれも４位に入るなど活躍を続ける国学院大学陸上競技部。年明け１月２、３日の箱根駅伝を前に12月16日、渋谷キャンパスで行われた壮行会では、針本正行学長から木付琳主将（経４）に古代紫の襷（たすき）が手渡された。

挨拶に立った前田康弘監督は「箱根を経験した４年生を中心に、勢いのある下級生が融合してこそ自分たちの目標が達成できると思って選手たちと歩んできた。出雲、全日本は４位で融合ができてきている。箱根駅伝はもっと高い山に挑む」、木付主将は「ベストメンバーが100％の力を出せば上位校と戦えると出雲、全日本で確信した。良い結果で恩返しをして締めくくりたい」と集まった学生や報道陣を前にそれぞれ意気込みを語った。

これに先立ち、箱根駅伝に出場する全21チームのエントリー選手16人が12月10日、関東学生陸上競技連盟から発表された。本学陸上競技部のエントリー選手16人は次の通り。

エントリー選手一覧（敬称略）

相澤　龍明（中文４）
今年最後のチャンスとなるので、これまでの集大成のすべてをぶつけて、単独で押せる強さを発揮する。

石川　航平（健体４）
最後の箱根は支えてくれた方々に恩返しをする場所。全力でチームの順位を上げる走りを。

木付　琳（主将・経４）
出雲、全日本で逃した表彰台、そして初の往路優勝、総合優勝を目指して頑張る。攻めの走りで区間賞。

島﨑　慎愛（経営４）
出雲、全日本は共に４位となり、十分に戦えることがわかった。箱根では優勝を狙いたい。区間賞を獲ってチームに流れをつくる。

殿地　琢朗（健体４）
強化してきたスプリントで、目指すは区間３位以内。チームも個人も過去最高の成績で、一番良い笑顔で終われるよう全力を尽くす。

藤木　宏太（神文４）
今年１年は故障の大変さを知った。集大成として魅せる走りをし、区間賞を目指す。

松延　大誠（健体４）
幼い頃から観（み）ていた舞台で、４年間のすべてをぶつける。バネを活かした走りで目標は区間３位以内。

坂本　健悟（経３）
全日本は自身初の三大駅伝で６区区間７位だった。箱根ではそれ以上の結果を残せるようにしたい。

中西　大翔（健体３）
出雲、全日本は納得する走りができなかった。箱根では今年１年間の思いを全てぶつけて、区間賞、総合優勝を達成したい。

伊地知　賢造（健体２）
出雲、全日本では自分の走りができた。箱根ではエース区間を担い、総合優勝に貢献したい。

瀬尾　秀介（経営２）
三大駅伝で初のメンバー入り。焦らず力をつけてきたことで大きく成長できた。強みの淡々と走り続ける力を発揮したい。

鶴　元太（史１）
ストロングポイントの長い距離への対応力を生かした自分のベストの走りをして、チームの力になる。

沼井　優斗（健体１）
全日本では順位を落としてチームに迷惑をかけた。優勝に貢献するインパクトのある走りで先輩方に恩返しを。

原　秀寿（健体１）
アピールポイントは気持ちが強いこと。夢の舞台で島﨑選手が持つ６区の学内記録を抜きたい。

平林　清澄（経営１）
出雲・全日本では他大学のエースに差をみせつけられた。箱根では力を発揮しチーム目標に貢献する。

山本　歩夢（健体１）
この１年で、スタミナの強化ができた。得意のラストスパートで総合優勝に貢献できるような走りをする。

K:DNA

2021 12

K:DNA――創立140年目を迎えた国学院大学の遺伝子…個人・個性を尊重する校風　若いエネルギーが未来を変える

柔道部

全日本学生柔道体重別 初の2階級制覇

学生柔道の個人日本一を争う全日本学生柔道体重別選手権大会が11月25、26日、千葉ポートアリーナ（千葉市）で行われ、国学院大学柔道部から予選を勝ち抜いた７選手が出場した。大会は新型コロナウイルスの影響で２年ぶりの開催。

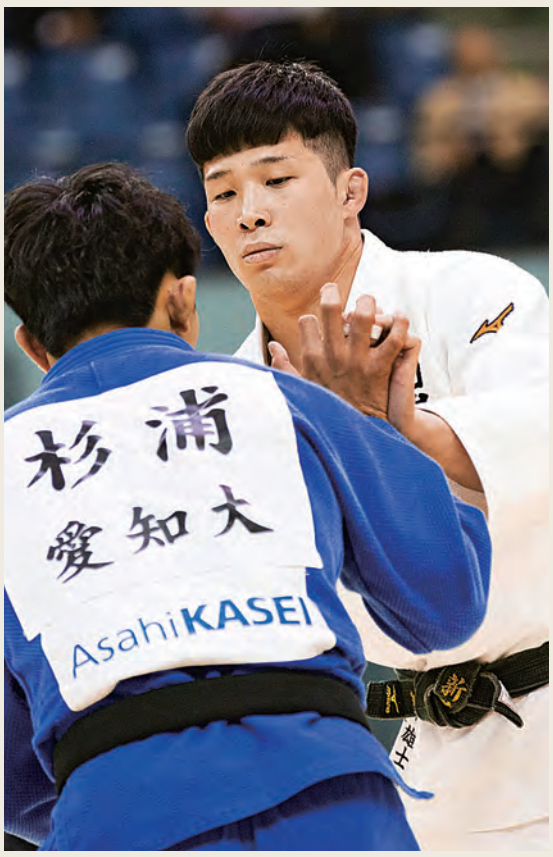
男子66kg級では、新井雄士選手（史４）が１回戦から接戦を制して勝ち進み、準決勝では、同大会３位入賞の実績がある湯本祥真選手（筑波大）から試合開始早々、技あり２つを奪って決勝進出を決めた。杉浦冬唯選手（愛知大）との決勝では終始、出足で相手を圧倒。技のポイントは得られなかったものの指導３つが与えられた相手選手の反則負けで優勝を決めた。

同90kg級では、押領司龍星選手（経営３）が２回戦から決勝まで全５試合で一本勝ちの快進撃で初優勝を飾った。この日の押領司選手は得意の背負い投げがさえた。初戦の２回戦で関東学生柔道体重別優勝の戸高淳之介選手（筑波大）を一本背負いで退けると、その後も対戦相手を圧倒し、背負い投げや一本背負いで強豪を寄せ付けなかった。中西一生選手（国士舘大）との決勝は延長にもつれたが、最後は鮮やかな背負い投げで頂点をつかんだ。

同大会での優勝は、平成20年度男子81kg級の川上智弘選手（平24卒・120期法、本学柔道部コーチ）、令和元年度男子73kg級の島田隆志郎選手（令２卒・128期健体、パーク24）に次ぐ快挙で、２階級制覇は創部以来初。

新井選手、押領司選手のほか、男子73kg級の川田武史選手（経３）、男子90kg級の中村俊太選手（健体１）がベスト８に入り、来年１月に行われる講道館杯全日本体重別選手権大会の出場権を獲得した。

優勝を決め拳を上げる押領司選手（経営3）



決勝を戦う新井選手（史4）

選手たちの声

新井選手「ベスト８に入らなければ学生最後の大会だったが、特別な緊張もなく、自分が思っている最大限のパフォーマンスができた。過去の講道館杯は１回戦敗退だったので、（１月の大会は）リベンジの気持ちで挑みたい」

押領司選手「信じられないくらいうれしい。（決勝は）延長に入って、自分がやってきた形を最後に決めることができてよかった。世界で活躍する先輩を追ってやってきて、やっとスタートラインに立てた。講道館杯もこの勢いで勝っていきたい」

全日本学生柔道体重別団体優勝大会
３大会連続でベスト８

７階級で争う柔道の全日本学生体重別団体優勝大会が12月８、９日、ベイコム総合体育館（兵庫県尼崎市）で行われ、国学院大学柔道部は３大会連続でベスト８に入った。昨年は新型コロナウイルス禍で中止となり、２年ぶりの開催。

上位を狙う同部は、２回戦の同志社大に５－０、３回戦の鹿屋体育大に２－０と快勝し、準々決勝進出を決めた。準々決勝は３大会続けて東海大学と対戦。三将の武岡毅選手（日文４）が１勝を挙げたが１－６で敗れた。優勝は東海大学。

陸上競技部

箱根駅伝 今回もテレビ・ラジオで観戦を!

第98回東京箱根間往復大学駅伝競走（箱根駅伝）が令和４年１月２、３日に開催される。前回大会で総合９位に入り３年連続でシード権を獲得した国学院大学陸上競技部は、「総合優勝」を目標に掲げ６年連続15回目の箱根路に挑む。

東京・大手町と箱根・芦ノ湖を結ぶ合計10区間217.1kmで行われる箱根駅伝は、前回大会でシード権を獲得した10校と、10月に行われた予選会を突破した10校に関東学生連合チームを加えた21チームが出場する。主催する関東学生陸上競技連盟は、新型コロナウイルスの感染防止対策の一環として前回大会に続き、大学関係者や応援団、卒業生、保護者に対して沿道での応援や観戦を控えるよう求め、テレビなどでの観戦、応援を呼びかけている。

エントリーメンバーはⅡ面

針本学長（前列左）から襷を受け取る木付主将